

第二期 倫理部会 第14回会合 議事メモ

日時:2021年4月10日 13:30～

手法:ZOOM

○A氏の提案について

1. 人として共通の倫理6項目について

(提案部分)

- ・ 有限の認識：地球環境は有限であり、これまでの人間活動の拡大により、今後の活動の環境上の余地は限界に達しつつあることの認識
- ・ 抑制する知恵：何事も無限の拡大・成長はあり得ないことを自覚し、ほどほどに自制する知恵
- ・ 共存する覚悟：人は孤立しては生きられず、様々な生き物とも共にこの星で調和して生きていく覚悟
- ・ 利他の心：自己利益だけの追求は、結局は人に幸福や利益をもたらさないという先人の教えを尊重する心
- ・ 事実の尊重：確証された事実可依拠し、意図的に捏造されたフェイクを拒否する力の尊重
- ・ 循環の術：不要物の再利用や自然への還元を可能にする工夫やシステムを創り出す術

(意見)

- ・ ジェンダーなどどこから入らないか
 - ・ 公平・平等の視点をどこに入れるか
 - ・ 畏敬の念がないから差別が起きる。そうした視点も必要では
- ◎「脱炭素社会における倫理」という点を忘れないように
- ・ 行へ・フェアな社会というのは上位目標では。また循環も物質に限ってもいいのではないか
 - ・ 事実とは何か？そこを明確にする必要がある
 - ・ 6項目はいいと思うが、言葉として、有限⇒限界？ 共存⇒共生？ 抑制⇒自制？ フェイクは強すぎるのでは？ 循環⇒短期的ではなく、長期的な視野

2. 政治に関わる人の倫理について

- ・ 今の政治家悪いのは、政治家だけの責任ではなく市民・選挙人にも責任がある
- ・ 政治家の責任と言った場合、その範囲はどこまでだろう？
- ・ 最低でもバッジをつけている間だが、その後も一個人としての倫理的責任はある
- ・ 原発や遺伝子組み換えなど、次世代に影響する政策の場合はどう考えるべきか？
- ・ 知らせることも一つの責任の取り方ではないか
- ・ そこに行った経緯や情報を公開することも重要
 - ⇒例えば「中長期の未来における危険性について洞察し、政策決定までの過程や事実を公開し、必要な政策を提示する責任をもつこと」

- ・原発ことなど考えると、政治家の責任も必要だが、将来世代に対しては、私たち市民の責任が大きいのではないか。
- ・人間は間違いを犯す。だから事故も起きる。
- ・(2) 市民の倫理のところに、「取り返しのつかない政策には反対する」というような内容を書き込んでもいいのではないか
- ・現状では科学も、それを言う政治家も信じられなくなっている
- ・欧州ではくじ引きで議員を選ぶという話もある
- ・政治的な議論の場があまりに少ないのが日本。それは教育にも関係する
- ・議論を好まない、習慣のない日本でヨーロッパの真似をしてもなかなか進まないのではないか。日本型の民主主義を考える時期に来ていると思うが、そうした議論はない
- ・環境を守るために、民主主義で守れるだろうか？
- ・未来を含めた民主主義が必要なのではないか
- ・その通りだが、現在の教育では、将来を見通す力が養われていないような気がする
- ・欧州では、NGOは環境利益の代表と認識されているが、日本ではそうした認識が希薄
- ・そのことは国環研とグリーン連合で行ったアンケート結果からも見えてくる

3. 今後の進め方

- ・すべての対象を議論した後では公表が遅れてしまう。
- ・「政治に関わる人」とあと 1-2 対象がまとまった段階で公表してはどうか。
- ・誰に向け公表するか？

次回までの宿題

- ・どのようにすれば、政治家や選挙民が変われるかについて、『「環境危機」時代をリードする政治に携わる人に求められる環境倫理（心構え、心得）」』の視点から、A 氏案に対する**具体的な意見を出す**

(参考：A氏案)

「環境危機」時代をリードする政治に携わる人に求められる環境倫理（心構え、心得）－
未定稿

1. 人として共通の倫理 6 項目

有限の認識：地球環境は有限であり、これまでの人間活動の拡大により、今後の活動の環境上の余地は限界に達しつつあることの認識

抑制する知恵：何事も無限の拡大・成長はあり得ないことを自覚し、ほどほどに自制する知恵

共存する覚悟：人は孤立しては生きられず、様々な生き物とも共にこの星で調和して生きていく覚悟

利他の心：自己利益だけの追求は、結局は人に幸福や利益をもたらさないという先人の教えを尊重する心

事実の尊重：確証された事実に依拠し、意図的に捏造されたフェイクを拒否する力の尊重

循環の術：不要物の再利用や自然への還元を可能にする工夫やシステムを創り出す術

2. 今日の「政治」の環境政策上の使命

(1) 国政：国民の生命・財産を護ることは大前提として、

- ① 国の向かうべき方向を、常に国民とともに検討し、その時々結論を国民に責任を持って明示し続けること
- ② 法律案、予算案などの形成を通してあるべき政策を議論し、選択し、決定し、将来世代を含む国民に対しその結果責任を負うこと
- ③ 国の安全・治安を守り、国の名誉と尊厳を護持すること
- ④ 世界の中の一員、しかも先進国の一員としての役割と責任を自覚し、世界の平和、安全、発展等を確保するため、ある程度の国益を離れても主体的かつ積極的に参画し、時にはリードすること
- ⑤ 世界の国々と友好関係を維持するよう、常に配慮すること

(2) 地方政治：県民、市民の生命・財産を護ること、行政を監督することは大前提として、

- ① 管轄する地域（県、市町村など）の課題は何か、その解決のために向かうべき方向を、常に多くの地域民と共に話し合い、検討し、その時々結論を地域民と行政に明示し続けること。
- ② 条例案、予算案などの形成を通して、課題の具体的な解決案を行政とともに検討し、採択するとともに、その結果責任を負うこと。

3. 政治に携わる人に要求される倫理

以下に示すカテゴリーに属する人は、いずれも1の「人として共通の倫理」を体得していることは前提の上で、次の倫理項目を追加的に保持すべきと考える。

(1) 国政に携わる人

- 環境危機の実態とその原因等についての情報を官僚からだけでなく、専門家、NPO、企業等から幅広く収集し、分析すること。
- 中長期の未来における危険性について洞察し、必要な対策を提示すること。
- 解決の先送り（逃げ）は決してしない、させない旨、常日頃表明していること。
- 出来る限り多くの国や国際機関と協力（共同）して人類社会の持続性確保に尽力する覚悟を常日頃表明していること。

(2) 地方政治に携わる人

管轄する地方に焦点を当てている以外は、(1)の国政に携わる人の場合に準じる。

(3) 選挙人（有権者）

【前提・背景】

- ・ 現在日本では、期日前投票の制度をはじめ、かなり投票し易い環境が整いつつあるにもかかわらず、国政選挙においては概ね5割前後、地方選挙は概ね3割前後の低投票率にあり、議会制民主主義の基盤が危うくなっている。
- ・ 低投票率の理由は、政党からの選択肢の貧弱さ、政治そのものへの不信、病気、極度の貧困等による参加意欲の喪失など様々に考えられるが、政治の結果はすべての人に及ぶ。

【倫理】

- 他人事ではなく、自分事として、一般人にとって唯一の政治参加機会である投票には必ず行き、たとえ白票であれ、意思を表明する権利であるとともに、民主政治を守る義務があることを認識すること。
- 国や地域の課題に関心を持ち、家族、友人、仕事仲間、NPO等の市民団体とそれらについて話し合い、勉強し合う環境をつくったり、参加したりして、有権者としての責務を果たす心構えを持つこと。
- 選挙の主要課題に対して関心を持ち、それなりの勉強もして、他人事ではなく自分事として、原則必ず投票すること。

(4) 政策の形成及び執行に携わる公務員

- 公正、公平を旨とし、常に適切な解決策を探求すること。
 - 従来の審議会等による政策形成方式以外にも活用し、幅広く意見を聴取することに努めること。
- 多様な人脈、多様な価値に常日頃接するように努めること。